

# 校長室だより

フィリピン訪問編

日本福祉大学付属高校 2017.2

2017年1月23～28日、フィリピン・ネグロス島のシライ・インスティテュートを訪問し、姉妹校提携の調印を行いました。またマングローブ植林活動やリサイクルバッグ製造作業場を訪問し、環境保全活動についても見学しました。姉妹校提携により、今後双方の生徒の交流が期待できます。



○シライ市の市街にあるシライ・インスティテュートを訪問。ここは中学から大学までの教育機関を持つ創立90周年の学校です。学生数は約1200名。内高校生は900名とのこと。玄関で先生方が熱烈に迎えてくださいました。(私たち2人の名前の看板も)フィリピンの学校は女性の先生が多いのが特徴だそうです(青色の服)。この学校も80名の先生の内、男性は10名しかいないとのこと。

○授業も見学させていただきました。どの教室も私たちが入ると一斉に立ち上がり、全員が笑顔で挨拶をしてくれました。パソコンなど情報機器は充実しているようでしたが、他の授業では教室が狭いので、椅子はあるものの机が人数分入らないのか、他の生徒と共用している教室もありました。教育条件は私たちより恵まれているとは言えませんが、生徒は授業に集中し、先生の質問によく手が挙がっているのに感心させられました。



○いよいよ姉妹校提携の調印式です。シライ・インスティテュート学長の挨拶のあと、私がスピーチ。その後、締結書(日本語と英語の両方)に署名を行いました。最後は記念撮影です。



○学校訪問以外に環境保全のとりくみも見学しました。Ikaw-Akoの西ネグロス現地駐在員の方の案内で、マングローブの植林の様子やジュースの使用済みパックをリサイクルし、バッグに作り変えている作業所を見学しました。



## Ikaw-Ako ミッション(HPより)

1. フィリピンで主に森林破壊に関する環境問題について実態を調査し、住民を教育しつつ住民と共に森林再生に取り組む。
2. 日本人とフィリピン人の親善を促進するため、文化交流活動を行う。
3. 森林再生に取り組む現地住民が、活動を継続するための資金を自己調達できるように職業訓練や収入向上支援を行う。



## ○訪問を終えて

フィリピンで連想するもの。若者にとってはセブ島などのリゾート地かもしれませんが、年配の方にとっては、日本との悲しい戦争の歴史かもしれません。また「1本のバナナから」や「エビと日本人」の話を思い浮かべる人もいます。グローバル化する世界、ますます世界とのつながりが強まっています。今回の訪問を機に、同じアジアの国として理解と友好を深めたいと感じました。